



未来構想大学講座 2025

筑波大学は

「ノーベル賞とオリンピック金メダル」をともに輩出する

世界でも稀にみる大学です。

筑波大学は、「未来へのフロンランナー」として

これからも進化しつづけます。

IMAGINE THE FUTURE.

未来構想大学講座

筑波大学は「新構想大学」と呼ばれ、「開かれた大学」を開学の理念として生まれました。旧来の大学のありかたを反省し、「学際」そして「国際」化への「改革」を掲げた、原点もアイデンティティもここにあります。その後の時代の流れをみれば、この理念の予見したものが、いかに先進的であったかがわかります。学際化、リベラルアーツ教育、産業と学問の連携、国際交流、留学生の受け入れなど、ことごとく時代の求めるところとなってきました。私たちは、この理念の先進性、先見性を誇りに思うべきです。

あえていうならば、私たちは「伝統校」「名門校」の称号よりも、新しい、開かれた「先端校」「先進校」の理念を選んだのです。東京高等師範学校、東京教育大学という伝統の誇りはいまでも私たちの内にありますが、東京を離れ筑波に地を得たとき、誓ったものは新しい「改革」と「挑戦」の理念でした。

「筑波」とは地名ではなく、その理念の代名詞と思うべきです。改革者は改革をやめず、開拓者は開拓をやめません。つねに、開かれてあること。みずからの改革をつづけ、時代の矢印となること。筑波大学が目指すナンバーワン、オンリーワンとは、最も「未来志向」の大学であること、ではないでしょうか。世界と未来に向けた TSUKUBA CITY の中枢として。医学・体育・芸術もあり、肉体性と感性の領域まで含む人間理解と人材育成を目指す、真の意味での総合大学＝UNIVERSITY として。

筑波大学とは「未来へのフロンランナー」である、と、あらためて確認して、この新しい伝統のバトンを、絶えることなくリレーしていきたいと思います。

『IMAGINE THE FUTURE. 未来構想大学講座』は、未来志向型グローバル人材の育成を図ることを目的とし、全学学生を対象とした科目として、産業界等と連携し学外から講師を招き開設する科目です。これらの授業をと
おして、筑波大学の、そして自分の未来を創造してください。

令和7年度は、次の5科目を開設します。

01

筑波大学特別講義—大学と学問—【総合科目(学士基盤科目)】
学長を始め本学に関係する研究者等のトップレクチャー

02

トップランナーが語る社会課題—混沌化する世界と変貌する地方
世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる連続リレー講義【総合科目(学士基盤科目)】

日本の一流企業で構成する JAPIC
(一社)日本プロジェクト産業協議会 (Japan Project Industry Council)) との
連携協定に基づき、産業界・官界で活躍する企業人等を講師とした科目

03

創造学群表現学類

—OBOG 指導によるクリエイティブ体験講座—【自由科目(特設)】

広告、デザイン、地域活性化など、クリエイティブ業界の第一線で活躍する
OB/OG によるワークショップ形式の科目

04

筑波クリエイティブ・キャンプ ベーシック&アドバンスト
～つくばの起業が未来を変える～【自由科目(特設)】

本学卒業生を中心としたビジネス開拓のフロントランナーによる
実学ベースの人材育成科目

05

地球規模課題へのアプローチ【社会・国際学群「学群グローバル科目群」】

国連関係機関および地球規模課題に取り組んでいる国際協力団体から講師を招き、
各課題に関する問題意識、実状、および課題解決への様々な試みなどを紹介する科目

筑波大学特別講義

— 大学と学問 —

科目情報

総合科目（学士基盤科目）
1226051「筑波大学特別講義—大学と学問—」
大学院共通科目 0A00508「UT-Top Academicist's Lecture」

開設学期・曜日・時間

秋 AB 水曜日 6 時限（16:45~18:00）

科目責任者

山田 一夫（人間系）
柏木 健一（人文社会系）
草野 都（生命環境系）

◆ 筑波大学特別講義について 副学長（教育担当） 加藤 光保

高校までの学修は、学修者である皆さん自身が社会において自立して生きる市民として、職業生活、市民生活、文化生活などを充実して過ごせるように学力「知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）」を向上させることが目的だったと思います。大学における学修にも同じ意義はありますが、それ以上に重要な大学における「学問」の意義は、人類が共有する知識や技能を向上させることにあります。高等教育機関で「学問」を学ぶ人は、初等教育を受ける「児童」や中等教育を受ける「生徒」と異なり、「学生」と呼ぶことが定められています。

学生の皆さんには、これまでの歴史上の記録や私達の記憶にない新たな状況が生起する現在において、様々な分野の知識を集積しつつ、他者との討論で自らを鍛えながら創造的な知性を涵養し、変動する社会に貢献できる課題解決力を身につけることが求められています。

「未来構想大学講座」の5つの科目は、本学における学びの原点として、それぞれに際立った特徴があり、生涯に渡って皆さんに示唆を与える本学ならではの「学問」の入口を提供しています。

「大学と学問」では、現代社会の様々な分野で新しい世界を切り開いてきた講師陣から、彼らのライフワークについて紹介していただき、勇気を出して質問し対話していただくことで、その生き方、学び方、学問の広がりや深さ、社会での実践に接し、そして自らの将来について深く考えていただくことを期待しています。

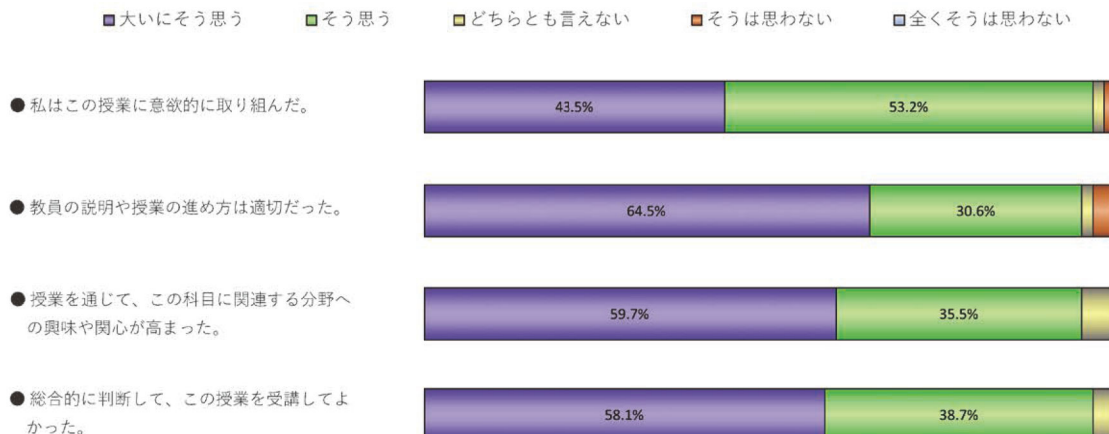


受講した学生からの反響

受講者アンケートからも分かる様に、講師陣の熱意あふれる講義は大半の受講生にしっかりと届いています。そしてその結果たくさんの受講生達が「新しい知識や考え方が習得できた」「満足できる講義だった」と評価しています。

これまでの講義では質疑の挙手が後を絶たず、時間の関係で終了した後もステージに学生が駆け寄り個々に質問する場面が見られるなど、大変好評でした。この特別講義の感動を、今度は是非あなた自身が体験してみてください！

2024 年度筑波大学特別講義受講者アンケート結果から（回答者数 62 人）



講師陣紹介

第1回
10/1



永田 恭介

筑波大学 学長

プロフィール アルバート・アインシュタイン医科大学博士研究員、スローンケタリング記念癌研究所研究員、国立遺伝学研究所助手、東京工業大学助教授、同教授を経て、2001年から筑波大学教授、2009年から学長補佐室長。2013年より学長就任。専門は、分子生物学、生化学、ウイルス学。1993年日本ウイルス学会杉浦奨励賞受賞。著書に、「ウイルスの生物学(羊土社)」、「ウイルス実験プロトコル(メジカルビュー社)」等多数。

授業概要 **大学と学問** コロナウイルス感染症の制御には新たな科学技術が貢献している。他の地球規模課題の解決にも科学技術の発展は欠かせない。加えて、これまでの知の集積を時代に継ぎ、新たな知を付け加えるためには、人材が必要である。基礎科学から創薬にまで繋がる研究に携わってきた経験と実感を交えて、これからの大学の役割と大学における学問について考える。

第2回
10/8



伊藤 節

筑波大学芸術系 教授、デザイナー

プロフィール 筑波大学大学院芸術研究科修士後ミラノに渡り、1995年デザイン事務所設立。プロダクトからインテリア、建築まで多岐にわたるデザインを総合的に行う。世界各国で作品を発表し、ゴールデンコンパス賞(伊)、レッドドット賞、IFデザイン賞(独)、グッドデザイン賞(米)他多くの国際デザイン賞を受賞。作品はミュンヘンとミラノの近代美術館に永久保存されている。ドムスアカデミーなど世界の多くの有名デザイン校で教鞭をとり、現在は筑波大学教授、東京大学先端研特任教授、ミラノ工科大学特任教授を勤める。

授業概要 **ネイチャーセンタードデザイン** 芸術とは人間の内に備わる感性能力を発揮して表現する行為であり、デザインとは応用芸術として感性を発揮し生活の豊かさを人や社会に提供する行為である。同時に俯瞰知・総合知として現代の難解な社会問題や社会変革に対応する有効なツールである。急激な技術革新と地球レベルの環境・社会問題に対し、自然の一部である人類は如何に人間性を維持・回復し、自然と共生し発展していくための人・もの・社会づくりを目指すべきか。分野を超えた様々なネイチャーセンタードデザインの事例を通して皆さんと一緒に考えていく。

第3回
10/15



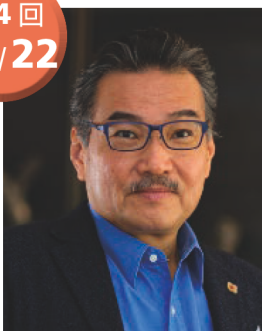
本間 三和子

筑波大学体育系 教授

プロフィール 大阪市生まれ。筑波大学体育専門学群卒、同大学院修士課程修了、博士(体育科学)。2011年から筑波大学教授、専門はコーチング論。1984ロサンゼルスオリンピック大会アーティスティックスイミング(AS)銅メダリスト(ソロ3位・デュエット3位)。文部大臣功労賞(1984)、国際水泳殿堂パラゴン賞(2014)、スポーツ庁長官奨励賞(2016)。国際水泳連盟AS技術委員(2000-2022)、アジア水泳連盟AS技術委員長(2000-2024)、日本水泳連盟AS委員長(2009-2023)、国際公認ジャッジ(1994-)、国際公認テクニカルコントローラー(2023-)、日本代表チーム強化戦略アドバイザー(2023-)。

授業概要 **アーティスティックスイミングの秘密を探る：華麗な演技の舞台裏と科学** 脚や腕を水上に保持したまま演技できるのはなぜなのか、一流選手の動きはどうなっているのか。学生アスリート時代に抱いた数々の疑問と知的好奇心が私の探求心に火を付けた。アーティスティックスイミングのダイナミックで華やかな演技の舞台裏を科学的に紐解き、水中におけるヒトの動きの不思議に迫る。

第4回
10/22



柳沢 正史

筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構(WPI-IIMS)機構長・教授

プロフィール 1985年筑波大学医学部卒、1988年博士課程修了。1991年31歳で渡米し、2014年までテキサス大学にて研究室を主宰。2010年より筑波大学教授を兼任し、2012年より国際統合睡眠医科学研究医科学機構(WPI-IIMS)の機構長として睡眠覚醒の謎に挑んでいる。筑波大学大学院生のときに血管収縮因子「エンドセリン」を発見、1999年には脳内の覚醒物質「オレキシン」を発見した。これらの発見は、いずれも上市新薬の開発に直接結びついた。2003年米国科学アカデミー正会員、2016年紫綬褒章、2018年朝日賞、慶應医学賞、2019年文化功労者、2023年ブレークスルー賞、クラリベイト引用栄誉賞など受賞多数。

授業概要 **睡眠の謎に挑む** 「なぜ眠らなければならないのか?」「そもそも眠気とは何か?」といった誰もが抱く疑問は未だに解明されていない。日米両国で最先端の研究を行ってきた経験を踏まえ、現在筑波大学で行っている睡眠・覚醒の根本的メカニズムの解明に関する研究について紹介する。

第5回
10/29



林 佳世子

元東京外国語大学 学長、東京外国語大学 名誉教授

プロフィール 専門：オスマン朝史、トルコ研究。

1984年お茶の水女子大学人文科学研究科修士課程修了(文学修士)。1988年東京大学人文科学研究科博士課程(東洋史学専攻)退学。1988年東京大学東洋文化研究所助手の後、1993年東京外国語大学外国語学部講師に就任。1996年同大学助教授、2005年同大学教授を経て、2013年に副学長に就任。2019年同大学長(～2025年3月)

授業概要 **歴史から考える** 皆さんが中学や高校で習った日本史や世界史は、暗記科目だったかもしれません。しかし、歴史を学ぶということは、そもそも、これまでの人類の歩みから今の私たちの立ち位置を考える、という行為にほかなりません。それが、古代の都市の繁栄であれ、ロシアのウクライナ侵攻であれ、過去の出来事を、今の私たちの目で解釈し説明する、そのストーリーが「歴史」となります。そんなことを、私の専門であるオスマン帝国を例に少し紹介したいと思います。

講師陣紹介

第6回
11/12



植田 宏昭

筑波大学生命環境学群長

プロフィール 筑波大学第一学群卒業。1997年同大学大学院・地球科学研究科修了、博士(理学)。日本学術振興会特別研究員、気象庁気象研究所研究官を経て、筑波大学生命環境系教授。米国国際太平洋研究センター（併任）、北海道大学招聘教授(併任)、日本気象学会理事、地球学類長などを歴任。気象庁異常気象分析検討会委員。異常気象の原因究明や季節予報精度向上に向けて、地球規模の気候システム変動の視点で取り組む。「2年先までの長期予報技術」の特許を取得し、季節予報の啓蒙活動と社会実装を推進中。

授業概要 **グローバル気候システム研究が解き明かす異常気象：天候予測の最前線** 豪雨、猛暑、暖冬、豪雪、台風の頻発など、異常気象の現象はしばしば地球温暖化(気候変化)が原因とされる。一方で、地球規模の気候システムの変動を考えると、主な変動要因は自然変動(気候変動)であり、地球温暖化はその影響を増幅する要因と捉えるのが適切である。本講義では、異常気象に関する最新の研究成果を紹介するとともに、季節予報の手法について解説する。季節予報は、社会経済活動への活用にとどまらず、防災・減災への貢献も期待されており、産官学連携の重要性がますます高まっている。

第7回
11/19



大倉 浩

筑波大学 名誉教授

プロフィール 1958年茨城県生まれ。専門は日本語史、特に『狂言記』を中心とした中近世の日本語。筑波大学大学院単位取得退学。博士(言語学)。1993年筑波大学講師、2008年筑波大学教授、その後、文芸・言語専攻長、人文学類長、人文・文化学群長を経て、現在、筑波大学名誉教授。長年にわたり高等学校国語教科書の編集委員も務める。

授業概要 **大学で狂言に出会った二人** 本学は、サークルなど課外活動が盛んな大学で、授業とは異なる様々な学びの場ともなっています。大学のサークルを通して狂言という日本の古典芸能に出会い、研究や修行の道として進んできた私たちの体験をもとに、大学で学ぶこと、日本で学ぶことの意味をあらためて考えてみましょう。本学OBで和泉流狂言師である山下先生の実演もお楽しみに。



山下 浩一郎

第8回
12/3



鈴木 健嗣

筑波大学システム情報系長、教授

プロフィール 2003年早稲田大学理工学研究科物理学及応用物理学専攻修了、博士(工学)。早稲田大学助手、筑波大学講師、同准教授、及び伊・ジェノヴァ大学、仏コレージュ・ド・フランスの客員研究員を経て、2016年より筑波大学教授。専門は、人工知能、サイバニクス他。本学サイバニクス研究センター、人工知能科学センター、附属病院未来医工融合研究センター設立に参画。2021年よりつくば市顧問としてスーパーシティ業務に従事。

授業概要 **人々を支援する人工知能とヒューマン・テクノロジー** 人々の残存機能や、本来有する能力を引き出すためのテクノロジーに関する研究を紹介する。これらは、人々の行動の深い理解に基づき、人工知能やロボット等の工学的な手法により行動形成を支援することで、人々が主体性を持って社会的な行動を行う未来を実現するための取り組みである。応用科学と社会実装に携わってきた経験を踏まえ、文理を超えた新しい学問分野や新産業を開拓するため、学術性と実践知を両立する学問の重要性について考える。

06

第9回
12/10



長谷川 康一

UiPath株式会社 会長

プロフィール 広島県出身 慶應義塾大学法学部法律学科卒業。アクセンチュア、ゴールドマンサックス、ドイツ銀行、パークレイズ銀行でコンサルティング、チーフインフォメーションオフィサー、チーフオペレーティングオフィサー等を歴任し、国内外拠点でマネジメントを経験。パークレイズ銀行ではグローバルテクノロジーの3分の1にあたる1万人規模のアジア地域部門をシンガポールで統括する。2017年2月にUiPath日本法人を1人で設立、3年で業界のリーディングカンパニーへ。現場を元気にするために、「1人1人がデジタルロボットを」「現場が主役の、輝く新しい自動化」を提唱している。著書「現場が輝くデジタルトランスフォーメーション」「現場が主役の日本型DX」(ダイヤモンド社)等。

授業概要 **Brimming with Curiosity (あふれ出る好奇心)** デジタルの時代を迎えた今、「エージェントオートメーション(Agent AI)」が日本社会にどう影響を与えるのかを現在の動向とともに考察し、その中でどのような人材がこれから必要になるのかを、自身がスタートアップの日本法人を立ち上げNYSEでの上場に大きく貢献した体験を通じ、示唆を共有する。

第10回
12/17



波多野 澄雄

国立公文書館アジア歴史資料センター長、筑波大学 名誉教授

プロフィール 慶應義塾大学大学院、博士(法学)、防衛研究所研究員、筑波大学助教授(社会科学系)、教授。人文社会科学部研究科長、副学長、附属図書館長。コロンビア大学、ハーバード大学客員研究員。日本国際政治学会理事、軍事史学会副会長、外務省「日本外交文書」編集委員長、日中歴史共同研究委員。近現代日本の政治外交史を専門とし、著作に、『幕僚たちの真珠湾』、『太平洋戦争とアジア外交』、『歴史としての日米安保条約』、『日本外交の150年』、『日本の歴史問題』など。

授業概要 **「20世紀」に学ぶ** 20世紀は前半の「総力戦」としての二つの世界大戦、後半の「冷戦」として特徴づけられ、また、自由主義、デモクラシー(民主政治)、ファシズム、全体主義といったイデオロギーによる特徴づけもできます。さらに、国民国家が世界を覆うようになり、それを可能にしたナショナリズムの勃興、その一方、植民地主義が批判された世紀でもありました。20世紀の日本は、これらの全てを経験した稀な国といえます。混迷を深める現代世界において、日本は何を指針として生き抜くべきなのか。そのヒントを20世紀史に探ります。

世界に挑む産業界・官界トップリーダーによる連続リレー講義

トップラナーが語る 社会課題 —混沌化する世界と変貌する地方—

科目情報

総合科目（学士基盤科目）

開設学期・曜日時限

春 BC 土曜日集中 詳細は P8-P9 参照

科目責任者

岡本 直久、土井 隆義
坪内 孝司、松井 圭介

本科目は、一般社団法人日本プロジェクト産業協議会（Japan Project-Industry Council：JAPIC）と本学との連携協定に基づき、平成 23 年度から開設されている科目です。産業界と連携した科目で、これほどの規模の科目は他大学にも類をみない、本学が全国に先駆けて開始した取り組みです。

JAPIC について

一般社団法人日本プロジェクト産業協議会（Japan Project-Industry Council：JAPIC）は、1979 年に産業界の複合組織として設立されました。以来、民間諸産業による業際的協力と産官学民の交流を通じて叡智を結集し、国民の安全安心と持続可能で豊かな社会づくりに向けて、産業・経済、環境・資源・エネルギー、教育、国土・防災・都市・地域計画等、立国の根幹に関わる事項の研究並びに実現活動を行うことにより、国家的諸課題の解決に寄与し、日本の明るい未来を創生することを目的として活動して参りました。現在43業種220社の企業、地方自治体、団体、NPO等から構成され、年間延べ1万人の実務家が公益的な立場から、1. プロジェクトの企画・実現、2. 政府関係機関への政策提言、3. 産官学民交流のためのプラットフォーム形成等活動を行っています。

開設趣旨

筑波大学とJAPICとの連携協定に基づき、本科目を開設します。

世界では、新興国の急成長、産業や市場のボーダレス化、AIやDX等、先端技術の進歩やビジネスモデルの変革などにより、人材・情報・資金が国境を越えて行かっています。同時に国同士は勿論のこと、国内の地域や都市の間でも競争が激化しています。

このため、地球環境問題や資源・エネルギー問題・国家間の安全保障や予期せぬ感染症の流布など、世界にまたがるグローバルな課題に的確に対処していくことが求められています。また、少子高齢化と人口減少が急速に進んでいるわが国で、豊かな生活と産業の発展の鍵を握るのは、地方の活性化であり、地方で活躍し、輝く若い人材が求められています。

この激動の時代を生き抜く学生の皆さんが、「国際社会と地域社会に貢献する」という高い志を持って研鑽に励むためには、この講義で説く『社会の基本的な理論や構造』の習得が必要不可欠と考えます。本リレー講義では、社会の基本的な理論や構造を探究し、全学群生を対象に、今後の大学生活で身に付けるべき知識、教養、想像力や構想力の向上をサポートします。

具体的には以下の6分野にプライオリティを置き、産業界・官界・政界のトップラナーがリレー講義を実施し、皆さんとともに考えます。

- ①「グローバル化と地域の日本のあり方」、②「政治・政策」、③「安全保障・憲法」、④「経済・産業」、⑤「環境・資源・エネルギー」、⑥「世界／アジア」（順不同）

また、大学院学生を対象に、産業界のトップリーダーによるアドバンス・ディスカッションコースを開設します。最新の社会、国際、ビジネス等分野の課題を捉え、議論を行い、深く考察していきます。

学生に期待すること

この科目名からの印象は、例えば社会系の講義だろう、自分にはあまり関係がなさそうだな、というものではないでしょうか？しかし、この講義に出席してみると、その印象は徐々に変わり、講義の終盤には、自分の専門分野の社会を通してのかかわりがおぼろげながらもわかってくるのではないかと思います。そして、知識のすそ野が格段に広がったことに気づきます。学士課程の当初に受講する総合科目「学問への誘い」では、各自の専門分野への理解を深めるとともに、そこから広がる様々な分野にも複眼的かつ俯瞰的な眼を養うことの重要性を説いています。この科目は、社会の側から様々な学問への気づきを喚起しようとしています。人の営みは社会を形成しますから、まさにここに光を当てて、産業界・官界で活躍されている世界に挑戦するトップラナーからの現代のホットでリアルな話を、実体験を交えながらお話しいただきます。講義のキーワードである「グローバル化とは何か」、「日本国内におけるグローバル化とは」、「地域社会の発展に何が必要か」について理解し、様々な課題に対して強い関心と好奇心を持ち、グローバルと地方創成の時代に果敢にチャレンジし、活躍できる人材を目指すことを期待します。



JAPIC会長
進藤 孝生
SHINDO Kosei
日本製鉄(株) 相談役

世界に挑む産業界・官界 トップリーダーによる 連続リレー講義

(令和7年度)



春BC 【総合科目(学士基盤科目)】トッランナーが語る社会課題—混沌化する世界と変貌する地方

第1回

5/24〔土〕 13:30 ~ 16:30

導入講義I

通常
講義

筑波大学における
グローバル人材育成方針

筑波大学 特命教授
学長特別補佐

坪内 孝司

導入講義II

通常
講義

連続リレー講義の意味・意義と
狙い

一般社団法人 日本プロジェクト産業協議会(JAPIC)
常務理事

林田 康洋

パネルディスカッション

第1部

グローバル化とは何か？
グローバル化の中で日本は？

第2部

学生は何を学び、
何を身に付けるべきか？

グローバル化とは何か？日本経済の諸課題を浮き彫りにした上で、安全保障、資源、エネルギーなど様々な観点から議論を進め、日本の進むべき未来を論じる。グローバル人材とは何か？産官学の第一人者たちが次世代のリーダーに必須となる素養について論じ、この講義で学んで欲しいことを明確化する。

パネリスト

株式会社モリアゲ
代表取締役

長野 麻子

パネリスト

国土交通省 国土政策局
総合計画課長

倉石 誠司

パネリスト

一般社団法人 日本プロジェクト
産業協議会(JAPIC) 常務理事

林田 康洋

コーディネーター

筑波大学 特命教授
学長特別補佐

坪内 孝司

第2回

6/7〔土〕 13:30 ~ 16:30

通常
講義

組織におけるダイバーシティと
人財活用

株式会社日本政策投資銀行
常務執行役員

原田 文代

通常
講義

日本の安全保障環境と防衛政策

防衛省 人事教育局長

青木 健至

社会・経済のグローバル化やサステナビリティへの対応の必要性を背景に、ダイバーシティの重要性はますます高まっている。当講義では組織におけるダイバーシティマネジメント、即ち構成員の多様な特性と個性の組織内への取込み、活用につき、歴史的発展過程及び現状、課題について解説する。また国内外の先進的事例を交えながらダイバーシティマネジメントの効用を明らかにし、将来像を展望する。

わが国を取り巻く安全保障環境は急激に不確実性を増し、防衛省・自衛隊が担う役割や活動の場面も宇宙・サイバー・電磁波まで広がりました。北朝鮮による度重なる弾道ミサイル発射、中国による一方的な現状変更の試みの執拗な継続、新型コロナウイルス感染症に対する活動、大規模な自然災害に対する災害派遣活動、米国をはじめとする諸外国との間における防衛協力・交流など、時事問題を扱いながらわかり易く解説したい。

第3回

6/14〔土〕 13:30～16:30

通常
講義

企業経営の現状・課題と戦略

日本製鉄株式会社 執行役員
人事労政部長

三好 忠満

本講義では、鉄鋼メーカーである日本製鉄の過去から現在までの歴史や取り組みを通じて、日本の製造業が目指す成長戦略や課題について考察する。①「鉄」という素材の多様な特性・魅力②プラザ合理による超円高、中国の台頭、川上・川下業界の再編等の危機をどのように乗り越えてきたか③人口減少による内需縮小、気候変動への対応ニーズの急激な高まり等の環境変化にどう向き合っていくか

通常
講義

地域資本を活用した地域経営

パシフィックコンサルタンツ株式会社 経営企画部
チーフプロジェクトマネージャー

石崎 晶子

地方創生が始まり10年が過ぎたが、少子化は加速し、地方流出、東京一極集中は依然として続いている。「地方創生2.0」が掲げられ、今後も強化されるであろう地方創生。前提として国土全体の中長期目線で、人口移動を正しく理解することが重要だ。その上で、人口減少時代のわが国での、持続可能な地域のあり方とはどんなものか？地域資源を「元手」に地域経営に取り組む各地の事例を紹介しながら、私たちの未来を考えたい。

第4回

6/21〔土〕 13:30～16:30

通常
講義

国際経済と総合商社の活動

丸紅経済研究所 研究主幹

重吉 玄德

本講義では、激動する国際経済の中で、総合商社がいかに戦略的にビジネスを展開してきたかを解説する。グローバル市場の変化に対応する総合商社の機能と役割を踏まえ、MBAで学ぶ経営戦略や財務管理の概念をわかりやすく紹介する。さらに、総合商社の事例を通じて、国際ビジネスの場で活躍するために必要な知識やスキルについても掘り下げていく。

通常
講義

グローバル化の変容と日本経済

一般社団法人 共同通信社 論説委員長

永井 利治

冷戦終結後に大きく進展したグローバル化は米中対立、ロシアのウクライナ侵攻によって大きく変わりつつある。新たな基軸として登場した「経済安全保障」が実行段階に入り、民主主義陣営と強権国家群の対立は隠しようにない。世界の分断という現実と直面する日本企業はどう活路を見いだすのか。政治、経済、外交を巡る日々のニュースを意識しながら、成長を続けるためのヒントを考えてみたい。

第5回

7/5〔土〕 13:30～16:30

通常
講義

未来のくにづくりを担う皆さんへ

内閣総理大臣補佐官(国土強靱化及び復興等の社会資本整備並びに
科学技術イノベーション政策その他特命事項担当)

森 昌文

安全・安心で豊かな国民生活の実現や我が国の持続的な経済成長のため、激甚化・頻発化する自然災害やインフラ老朽化等の国家の危機から国民の生命・財産・暮らしを守り、DX・新技術の徹底した社会実装等によりイノベーションを促進することが求められている。総理大臣官邸で社会資本整備や科学技術イノベーション政策に携わる立場から、我が国を取り巻く現状と課題、未来のくにづくりを担う将来のエンジニアへの期待を語る。

通常
講義

日本産業のありたき姿について

株式会社みずほ銀行 執行役員 産業調査部長

定岡 祐二

日本は今、不安定な世界(米中拮抗、覇権国不在)、人口減少・高齢化、サステナビリティ実現、テクノロジー変化といった大きな潮流の変化の中に身を置いている。
本講義では、日本産業を取り巻く環境の変化と、それを踏まえた日本産業のありたき姿について考察する。

確認テスト

7/12〔土〕 13:30～16:10



創造学群表現学類

－ OBOG 指導による クリエイティブ体験講座 －

科目情報 自由科目（特設）

開設学期・曜日時限 集中

担当教員 一倉 宏、原 忠信 他

◆ 授業概要

「筑波大学」を社会に発信するためのコミュニケーションを言語、デザイン、音楽、身体等の表現を通じて考え、クリエイティブワークを総合的、体験的に学習します。

備考：実施時期等については、掲示にて周知します。

受講希望者多数の場合、人数制限をする場合があります。

◆ 開設目的

筑波大学は、医学・体育・芸術もあり、肉体的と感性の領域まで含む人間理解と人材育成を目指す、真の意味での総合大学です。本講座では創造と表現を言葉やビジュアルにとどめず、テクノロジーや音楽、身体にまでひろげ、コミュニケーションすることを学びます。第一線で活躍する講師陣に指導を受けながら、限られた時間と空間の中で表現をつくりあげる経験は、得がたいものとなることでしょう。



学生制作のラジオ CM

日本最大級の広告フェスティバルで受賞！



Bayfm78の収録ブースにて ※収録風景はH29年度のものです

Bayfm78 で放送した「筑波大学ラジオ CM 夏休み編 / 春休み編」が、日本最大級の広告賞「2019 59th ACC CM FESTIVAL」（一般社団法人 全日本シーエム放送連盟主催）で、ACC 地域ファイナリストに選ばれました。応募総数 2,456 作品、プロがひしめく中、学生制作のラジオ CM の入賞は 6 回連続の快挙です。

夏休み編、春休み編の 2 本はベイエフエムの本社で収録しました。今年は「子供の頃に抱いた、知的好奇心を持ち続けて欲しい」という気持ちで作品を製作しています。簡単には答えの出ない、子供の素朴な疑問。大学で、その答えを見つけて欲しい、という思いです。これを「知りたいこと、追いかけてよう」というタグラインに込めました。

受賞したのは、芸術専門学群 3 年の粕川実夢さん、同 2 年の佐藤遼太郎さん。春休み編のナレーションは同 3 年の高橋呼春さんが担当しました。H30 年度の自由科目「IMAGINE THE FUTURE. 未来創造大学講座－創造学群表現学類－」で制作した作品です。

夏休み編

8月9日 きょうの夜、まどの外から花火が見えた。

花火は先に見えるのに、音はおくれて聞こえてくるのはなんだろう？

8月15日 プールに行ってきた。帰りにラムネを買って飲んだ。ラムネのビー玉って、どうして入っているんだろう？

8月20日 セミがずっと鳴いている。セミって地上に出て一週間しか生きられないらしい。どうしてセミはそんなに短い間しか生きられないんだろう？

どうしてスイカに塩をかけると甘くなるんだろう？
どうして入道雲は、夏にしか見られないんだろう？
どうしてこんなに、不思議なことがいっぱいなんだろう。

知りたいこと、追いかけてよう
筑波大学

8月31日 どうして宿題ってあるんだろう・・・



予定している講師陣

コピーライター

一倉 宏氏 (1978年 人文学類卒業、一倉広告制作所)

- ・「きれいなおねえさんは好きですか」「あなたとコンビにファミリーマート」などのヒットコピーで知られる。
- ・東京コピーライターズクラブ賞グランプリ、東京アートディレクターズクラブ賞制作者賞。

籠島 康治氏 (1991年 自然学類卒業：コピーライター：株式会社電通)

岩崎 友彦氏 (1995年 自然学類卒業：編集者：フリーランス)

中村 直史氏 (1995年 自然学類卒業：コピーライター/クリエイティブディレクター：株式会社五島列島なかむらたし社)

角田 武氏 (2002年 人間学類卒業：コピーライター：株式会社電通)

アートディレクター、デザイナー

中本 陽子氏 (1997年 芸術専門学群卒業：アートディレクター：株式会社サン・アド)

岩下 智氏 (2002年 芸術専門学群卒業：アートディレクター：株式会社電通)

グラフィック・クリエイター

森川 幸人氏 (芸術専門学群卒業、株式会社ムームー)

- ・代表作は、「アインシュタイン」、「ウゴウゴ・ルーガ」(テレビ番組 CG)
- ・「ジャンピング・フラッシュ」「アストロノーカ」「くまうた」(ゲームソフト)
- ・「テロメアの帽子」「ヌカカの結婚」「アニマル・レスキュー」(iPhone アプリ)

作曲家

吉川洋一郎氏 (自然学類 OB、NPO 法人山海塾理事)

- ・舞踏グループ山海塾の作曲、映像プロデュース。
- ・NHK スペシャル「地球大紀行」NHK 教育「ニャンチュウといっしょ」NHK アニメ「ベイビーステップ」「今日から魔王」の BGM を作曲。
- ・英国にてローレンスオリビエ賞、朝日舞台芸術賞グランプリ。

まんが家、キャラクターデザイン

青木 俊直氏 (1983年 基礎工学類卒業)

- ・TV 番組のアニメーション制作
(「ウゴウゴルーガ」「おかあさんといっしょ」「むしまる Q」など)。
- ・キャラクターデザイン (TV アニメ「ひそねとまそたん」JR 東日本「びゅうリップちゃん」など)
- ・漫画(「なのはなフラワーズ(まんがタイムジャンボ：芳文社)」
「スリーピース(シンカン：朝日新聞出版)」@ ポチ(Web@パンチ：新潮社)など)。



筑波クリエイティブ・キャンプ

ベーシック&アドバンスト

～つくばの起業が未来を変える～

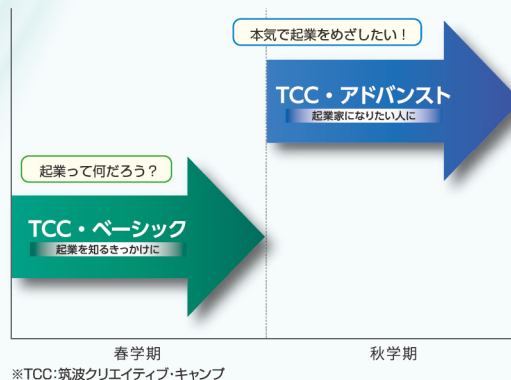
◆ 授業概要

筑波クリエイティブ・キャンプ・ベーシック —アントレプレナー入門講座—

LINEのように、皆さんが広く知ってるビジネスも、始まりはひらめきからスタートしています。そのひらめきを実行したいというモチベーションが起業マインドそのものです。この講座では、第一線で活躍する有名起業家等による講演やパネルディスカッション、そしてひらめき（ビジネス着想）からビジネスモデル構築までをチーム編成して実際に体験するワークショップを実施します。

実践編

入門編



筑波クリエイティブ・キャンプ・アドバンスト:

本格的に起業を目指す受講者に対して、本学出身者を中心とする経営者陣が起業プランに対する個別メンタリングを行ないます。C Channel 株式会社代表取締役社長の森川亮氏コーディネートのもと、受講者の持つ起業プランを具体化し、筑波大学発ベンチャーの設立を支援していきます。講義を交えながらグループ活動発表とフィードバックを中心に行って、最終発表会で投資家や経営者などの審査員の前で事業プランを披露します。

◆ 開設目的

大学での研究や、自分の関心を元に起業をすること、また、将来のキャリアとしての起業をするという選択肢について学びます。起業について知ることは、実際に起業をする人だけでなく、研究においても自分の研究結果がどう社会に貢献するかを見据えることに役立ちます。今すぐに起業をしなくても、「自分の思いで社会を変える!」というイノベーション的視点を持った人材の育成を目指します。

※プログラムを終了し、要件を満たした方には、「創業支援事業計画」に基づく特定創業支援事業の支援を受けた創業者としてつくば市が証明書を発行します。これにより、つくば市内で創業する方は、法人設立時の登録免許税の軽減や、融資を受ける際に創業関連保証枠の拡充等の優遇措置を受けることができます。

筑波クリエイティブ・キャンプ・ベーシック&アドバンストの様子



ベーシック 授業風景



ベーシック 授業風景


アドバンスト
起業プラン発表会

アドバンスト
起業プラン発表会

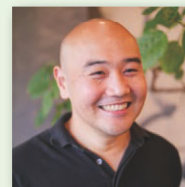
予定している講師陣

筑波クリエイティブ・キャンプ・ベーシック

尾崎 典明 氏

筑波大学客員教授、S-factory 代表、一般社団法人 TX アントレプレナーパートナーズ 副代表理事、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構技術委員、一般社団法人発明推進協会研究員 他。

100 社を超える中小企業・ベンチャー等に対し事業開発支援の経験、官公庁スタートアップ支援事業における各種アドバイザー経験がある。



筑波クリエイティブ・キャンプ・アドバンスト

森川 亮 氏

1989 年筑波大学卒、日本テレビ入社。1999 年、青山学院大学大学院国際政治経済学研究科修士課程を修了し MBA 取得。その後ソニーに入社。2003 年ハンゲームジャパン（現 LINE 株式会社）入社、2007 年社長。2015 年 3 月、同社代表取締役社長を退任しアドバイザーとして顧問に就任。同年 4 月、C Channel 株式会社代表取締役に就任。現在は、同社代表取締役社長。



▶普通に学生生活をしている大学生でも、
目線や行動を変えるだけで世界を驚かすイ
ノベーションを生み出すことが可能です。
ノベーションを生み出す人生、思いっきり挑戦し
よう。どうせ 1 回きりの人生、思いっきり挑戦し
よう。（森川氏）

◆ その他の起業に関連した授業

「アントレプレナーへの誘い」

（科目番号：1226194 学士基盤科目 春 A 木 3、4）

～社会課題解決型の起業家精神を学ぶ

アントレプレナーシップ（起業家精神）とは、必ずしも起業することを意味するのではなく、自立していくためのキャリア形成にとってすべての人が身に付けるべきものです。本授業では、自ら事業を興すなどしてイノベーションを起こす者

（アントレプレナー）となるための基盤作りとして、外部有識者による講演とグループワークとを交え、アントレプレナーシップの基本知識と考え方（アイデア発想、チャンスの発見、ビジョン、倫理的で持続可能な考え方）を学習します。



授業風景

「起業家のための経営・知財必須知識」（科目番号：8331224 学群自由科目（特設）秋 AB 集中）

～起業で失敗しない実務を学ぶ

次世代の起業家として必要な知的財産と戦略、ファイナンス、経営、マーケティング、契約などを講義・演習により習得し、事業化する際のリスク低減ができるようになることを目指します。将来、企業において事業開発を推進する上でも役立つ知識です。

地球規模課題への アプローチ

科目情報 社会・国際学群「学群グローバル科目群」

開設学期・曜日時限 秋 AB 月 3, 4

担当教員 土井 隆義・佐本 英規

筑波大学は、国連が提唱し持続可能な成長の実現を目指す世界的な取組み「国連グローバル・コンパクト（UNGC）」へ、2017年8月に日本の国立大学として初めて加盟しました。

本学の取組の一つとして、2018年度より本授業を開設しています。

◆ 今、私たちが取り組むべき「地球規模課題」

筑波大学の「基本的な目標」には「地球規模課題の解決に向けた知の創造とこれを牽引するグローバル人材の創出を目指す」とある。

では、「地球規模課題」とは何か？ それに取り組む「グローバル人材」とはどのような人材か？

さまざまな考え方、立場、アプローチがあると思われるが、ひとつの指針として「国連」の取り組む課題に集約されていると考えることもできる。

国連の各機関および国連と協業しながら活動を進めるさまざまな団体、研究機関、NGO、NPO、企業などが、どのような課題に取り組んでいるのか、どのような活動をしているかを知ること、現在、そして未来に向けての取り組むべき課題の現状を正確に理解することができる。

本講義では、国連機関の駐日代表事務所、およびそれぞれの立場から地球規模課題に取り組んでいる開発銀行や国際協力団体、企業から週替わりで講師を招き、各課題に関する問題意識、実状、および課題解決への様々な試みなどを紹介していく。

学生個々人の興味や学習テーマと、それらの課題がどのように結びついて行くかを各々が深く考えることにより、それらを「自らの課題」として捉え、それぞれの立場で行動していくきっかけとしていきたい。

持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals :SDGs とは

国際社会は今、2015年に国連が制定した持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)を基に、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指し、経済・社会・環境等、様々な分野の広範な課題に統合的に取り組んでいる。この2030年を期限とする包括的な17分野の開発目標に対し、先進国・途上国を問わず各国政府、民間企業、NGO、有識者をはじめ、私たち一人ひとりが、それぞれの立場で役割を果たすことが求められている。



◆ 授業の概要

講義日	講義タイトル	講師名	所属・役職
10月6日	第1回 国連パートナーとしての企業の役割と期待	氏家 啓一	一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン 事務局次長
10月16日	第2回 日本経済と国際社会の「共創」 ーBOPビジネスから責任ある企業行動へ	井上 直美	在モザンビーク大使館専門調査員
10月20日	第3回 「ジェンダー」の視点から考える国際NGOの役割と企業との 戦略的パートナーシップーCAREの取り組みから	高木美代子	公益財団法人ケア・インターナショナル ジャパン マーケティング部長
10月27日	第4回 地球規模課題、イスラム過激派に対する穏健イスラム国家、 モロッコの取り組み(仮)	黒川 恒男	元JICA理事 元駐モロッコ特命全権大使
11月7日	第5回 変貌するグローバリズムの中での日本外交の選択(仮)	岡田 誠司	元駐バチカン特命全権大使 元駐南スーダン特命全権大使
11月17日	第6回 持続可能な社会に向けた学び(仮)	大安 喜一	公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター 教育協力部長
11月25日	第7回 コンサルティング・ワークとサステナビリティ領域の動向(仮)	三浦 雅子	株式会社クニエ 途上国ビジネス支援担当 シニア・コンサルタント
12月1日	第8回 筑波大学発COP30を考える	倉光 恭三	公益財団法人日本フィランソロピー協会理事 元日商岩井株式会社 エネルギー電力事業部長
12月8日	第9回 世界の難民状況とUNHCRの役割(仮)	辻井 萌子	国連難民高等弁務官事務所駐日事務所 渉外担当官
12月15日	第10回 SDGs達成に必要な資金は誰が負担する？	鈴木 英明	元世界銀行 理事 筑波大学 客員教授

◆ 講師のことば



氏家 啓一 講師

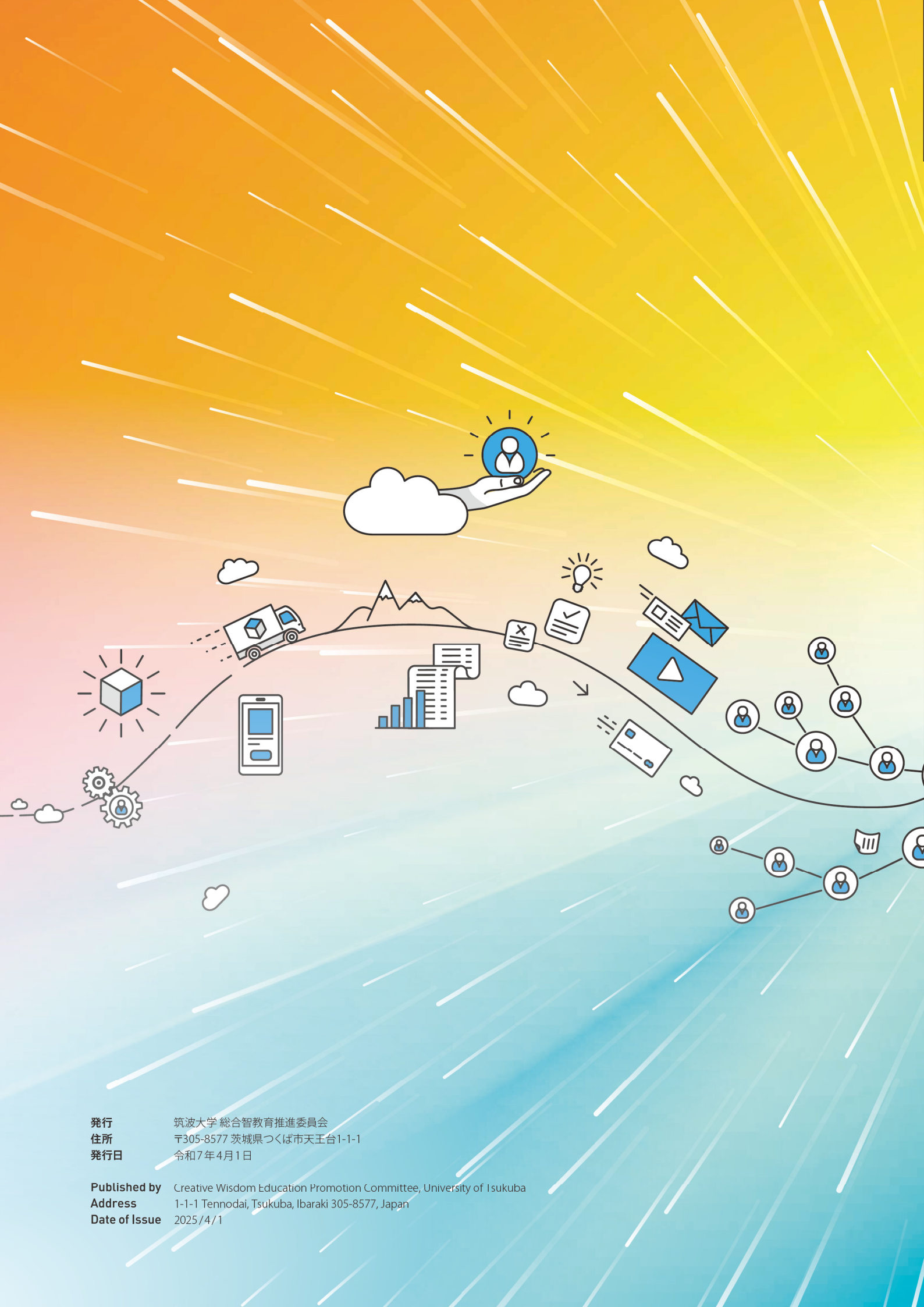
グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ) 事務局次長

“三方よし”を紹介しよう。「売り手よし、買い手よし、世間よし」と言う。自分の利益だけをむさばらず、売り先を大切にする「利他の精神」を身につけ、社会からの信用も大切にしなければならないとする江戸時代からの近江商人の考えだ。この共生の思想は、持続的成長の経営理念として多くの現代企業に取り入れられてきた。

狭矮(きょうわい)な解釈をしてはならない。商売の当事者だけが満足する静的状態の確保が果たして社会を良くできるのか。

そこで、三方のうち“世間”を“国際社会”に、そして“買い手”を“多様な利害関係者(マルチステークホルダー)”に置き換えてみよう。“企業”は、この二者とどのような関わりを持つべきであろうか。「国際社会良し」にするための課題が一気に広がる。地球温暖化、貧困格差、人権侵害諸々、そして社会からの信用とは国際規範との整合であり、世間(ローカル)の安定解の安住から飛び出していく勇気が必要となるだろう。

皆さんに、この講座を通して新しい“三方よし”として、その拡張形を考えてほしい。それを実現するために私たちは何をすべきであるか。



発行 筑波大学 総合智教育推進委員会
住所 〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1
発行日 令和7年4月1日

Published by Creative Wisdom Education Promotion Committee, University of Tsukuba
Address 1-1-1 Tennodai, Tsukuba, Ibaraki 305-8577, Japan
Date of Issue 2025/4/1